

組織目標評価報告書（平成27年度）

部局名：

保健管理センター

部局長名：

小倉 俊郎

目 標	目標の達成状況(成果)及び新たに生じた課題への取組 (部局での検証とそれに対する取組)
<p>①教育領域</p> <p>①-1 目標</p> <p>保健管理センター(以下「センター」)の教育目標は、在学中のみならず生涯にわたり、心身の健康を維持できるように「正しい健康観」を身につけるための教育支援とする。</p> <p>1. 教育の実施体制について</p> <p>担当する二つの教養講義を軸とし、センター講演会、研修会、出前講座、学生保健ネットワーク、ホームページ、電子掲示板などにより教育支援活動を行う。</p> <p>2. 教育方法・内容について</p> <p>平成28年度の60分、クォーター制への移行のために、授業内容を再検討し、スムーズな移行とより充実した内容のための準備期間とする。徐々にe-learningによる授業・試験の体制を構築する。各講義ごとに小テストを行い知識の確認を行う。講義・講演会・研修会のみならず、健康診断(以下健診)や一般外来診療での保健指導を通して、医師・保健師・栄養士・臨床心理士が個々の学生に健康教育を行う。禁煙相談外来での支援も併せて行う。</p> <p>3. 教育の成果について</p> <p>学習の成果は、授業成績やアンケート結果で判断する。卒業後の進路についてはセンターでは把握できない。センター利用者数(メンタル系疾患の受診者)も参考とする。</p> <p>4. 学生支援について</p> <p>前述したような健康教育に加え、一般外来や健診を通して疾病の予防、早期発見を行い、必要な場合は医療に結びつける。また、就職時の健康診断書作成や国家試験の証明書発行を通じて学生の支援を行う。</p> <p>①-2 目標とする(重要視する)客観的指標</p> <p>1. センター講演会をフィジカル、メンタル各1回以上開催する。</p> <p>2. 教養講義で、e-learningの教材を複数科目作成する。</p> <p>3. メンタル系の教育的な講義、講演、出前講座の充実を図る。</p> <p>4. 学生保健ネットワークにより健康に関する話題を年間10件以上提供する。</p>	<p>自己評価</p> <p>目標への取り組み状況</p> <p>1. 教育の実施体制</p> <p>学生講義として「健康スポーツ科学」「キャンパスライフとメンタルヘルス」「診断治療学」を、また保健学科「生涯支援看護学実習」教養科目「サステイナブル・キャンパスを自指して」の一部を担当した。センター講演会では、フィジカル系は学生支援センター原田新進教授に「障害者差別解消法と岡山大学障がい学生支援室のご紹介」、メンタル系は岡山学院保健師 学校医・産業医杉田義郎氏に「メンタルヘルスと生活習慣」という講演をおこなった。安全衛生定期講習会では岩崎が「熱中症対策及び屋外作業」、清水が「肩こり予防」、大西が「職場のメンタルヘルス対策について」の講習を行った。メンタル系の講演、出前講座は48件行った。学生保健ネットワークは感染症予防を中心に13件を配信し、センターホームページでは新着ニュースを35件をアップした。</p> <p>2. 教育方法・内容</p> <p>平成28年度の60分、クォーター制に移行するため授業内容の整理統合を行い準備した。教養授業において、「タハコ」の教育と啓発の一環として、e-learningを導入した。新入生健診において受診者全員に対し、センターの保健師、医師が個別に問診を行い健康状態の把握とともに健康指導を実施した。職員健診においても保健師が健康問診を行って各自に保健指導を行った。</p> <p>3. 教育の成果</p> <p>健康スポーツ科学、診断治療学の期末者査平均点はそれぞれ78.0および84.1点で、追試をおこなったうえで前者1名が不合格となった。センターの外来利用者数は2月未現在で学生5,132名、職員1,575名で、うちメンタル外来受診者数は学生816名、職員806名で、学生・教職員とも利用者が増加しつつある。</p> <p>4. 学生支援 (H27年3月1日～H28年2月29日)</p> <p>津島・鹿田地区を合わせて就職時健康診断2711件、国家試験証明書276件を発行した。</p> <p>指標による達成状況</p> <p>1. 保健管理センター講演会は目標数及び内容を達成した。</p> <p>2. 後期教養授業で、禁煙の啓発教育として、e-learningの教材を作成し実施した。</p> <p>3. メンタル系講演、出前講座48件を実施した。</p> <p>4. 学生保健ネットワーク配信数は目標を達成した。</p>
<p>②研究領域</p> <p>②-1 目標</p> <p>センターとしての研究は、健康や疾病に関する集約的(疫学的)研究と個々の事例検討による報告とし、研究設備を要するような実験的な研究は各個人の施設との共同研究にゆだねる。</p> <p>1. 研究水準及び研究成果等について</p> <p>保健管理研究会やメンタルヘルス系学会・研究会において、主として学生・職員の保健管理・健康と疾病・労働安全衛生に関する研究について発表し、論文・報告書の形でセンターの業績として残すことを目標とする。</p> <p>2. 研究実施体制等の整備について</p> <p>当センターへのミッションを考えれば、研究設備を新たに設置・拡充すること是不合理であり予定しない。研究実施体制としては、科学研究費の獲得を図り、内容的には倫理的視点から問題のない形で疫学的あるいは健康教育的な研究実施を目指す。</p> <p>3. その他</p> <p>各教員が大学病院などの連携によって行っている研究は個々の研究業績として継続し、個人としての研究業績があげられる支援体制を連携にも目標のひとつである。個々の研究は各教員ごとに目標を立てて実施する。</p> <p>②-2 目標とする(重要視する)客観的指標</p> <p>1. 全国、中国四国大学保健管理研究会にフィジカル、メンタル各2演題以上の発表。</p> <p>2. 上記以外の学会・研究会にフィジカル、メンタル各1演題以上を発表する。</p> <p>3. 科学研究費の全応募と採択率の上昇およびその他の助成申請への積極的応募。</p>	<p>自己評価</p> <p>目標への取り組み状況</p> <p>1. 研究水準及び研究成果等について (センター業務内容にかかわる研究のみ)</p> <p>中国四国大学保健管理研究会には「職員健診における検査の試み」中山、「当大学における電磁放射線取扱者健診について」山崎、「保健管理センターでの外傷処置の現状」岡、「大学病院におけるメンタルヘルス産業医活動」大西、の計4演題、全国大学保健管理研究会では「岡山大学メンタルヘルス対策推進室の紹介」清水、「医療系学生における第3期：第4期予防接種後の麻疹・風疹抗体の推移」岩崎、の計2演題を発表した。そのほか第5回「日本肝臓学会総会で「非アルコール性脂肪性肝疾患における血清Irisinの検討」岩崎、全国大学メンタルヘルス研究で「ストレスチェック制度を教職員などどのように捉えているのか」清水、など発表した。</p> <p>2. 研究実施体制等の整備について</p> <p>研究設備への投資は行っており、現体制の中で疫学的あるいは健康教育に関する実践的研究を行うべく努力した。科学研究費には定年を控えた教員以外は全応募申請を行った。現在、1件が採択されて進行中。</p> <p>3. その他</p> <p>特記事項はない。医学部との協力による個々の教員の研究内容・成果に関しては割愛する。</p> <p>指標による達成状況</p> <p>1. 保健管理研究会発表目標を上回り、合計6演題を発表した。</p> <p>2. 上記以外の学会ではフィジカル1演題、メンタル1演題で目標を達した。</p> <p>3. 今回、定年を控えた教員以外は科学研究費応募申請を行った。その結果はまだ不明で採択率の評価は困難。</p>
<p>③社会貢献(診療を含む)領域</p> <p>③-1 目標</p> <p>「社会貢献」への取り組みは、各教員の専門性も異なるため実質的には、個々の教員が保健師、医師会などから依頼があれば協力する形で実施している。国際協力は下記のとおり。</p> <p>1. 地域社会との連携、社会貢献について</p> <p>敷地内全面禁煙に伴い、安全衛生部と協働し、大学と地域が一体化して喫煙対策が図れるように努める。可能な職員健診で喫煙に関するアンケートと原中コチン測定を行って、敷地内全面禁煙後の受動喫煙の現状を調査する。</p> <p>2. 国際交流・協力、外国人研究者の雇用について</p> <p>留学生が本邦において快適な生活をおくれるよう、入学後の健診・外来を通して、健康支援を行う。雇用については今のところ考えていない。本学構成員が海外へ行く際の健診やワクチン接種などについて支援を行う。</p> <p>③-2 目標とする(重要視する)客観的指標</p> <p>1. 具体的数値は難しいが、対外的な講義・講演などに積極的に取り組むことを目標とする。</p> <p>2. 留学生健診の受診率を平成26年度よりアップさせ、事後措置の充実を図る。</p>	<p>自己評価</p> <p>目標への取り組み状況</p> <p>1. 地域社会との連携、社会貢献について</p> <p>敷地内全面禁煙化施行後、近隣住民からの喫煙に関する苦情が多かったが現在徐々に減少しつつある。その内容は喫煙対策WGで検討のうえ、津島地区安全衛生委員会でも報告した。大学と地域が一体化して受動喫煙防止が図れるよう安全衛生部と協力して近隣のアナウンスを定期的に行っている。職員健診において喫煙に関するアンケートと原中コチン測定を行い、喫煙状況および受動喫煙の実態を検証し、敷地内全面禁煙実施後に受動喫煙率が改善していることを明らかにした。</p> <p>2. 国際交流・協力、外国人研究者の雇用について</p> <p>一般の外来診療、健診を通して留学生への健康支援を行い、留学生が本邦において安心して学業に励める一助となるよう可能な援助を行った。特に増加が続く留学生については、疾患を有する学生の留学前および留学後の対応やグローバルパートナーズ等関係部署との合同会議などで連携を取り、留学生健診における過去の問題点とその対応を事前の協議により改善することになり、スムーズな健診の実施や健康診断受診率の向上を図った。海外派遣学生への健康診断書の作成や海外派遣労働者の健診を行った。海外長期出張の職員には、海外派遣前健診をセンター産業医が面接の上で行って、ワクチン接種の必要性などを可能な範囲で説明している。留学生向けに問診票の見直しやパンフレット類の外国語表記を積極的に行った。</p> <p>指標による達成状況</p> <p>1. 社会貢献活動</p> <p>大西が、岡山市精神医療審査委員会他6件、清水が、岡山地方裁判所精神保健審判員他5件の委員等の職務を通じて地域へ貢献した。敷地内全面禁煙実施後の受動喫煙率を明らかにした。</p> <p>2. 留学生の健診受診率</p> <p>今年度は76.8%で、昨年の62.2%より受診率がアップした。グローバル・パートナーズと合同会議を開き、留学生健診についての問題点を検討し未受診者を抽出し個々に連絡した上で臨時健診を行い未受診者の減少を図った。</p>
<p>④センター業務</p> <p>④-1 目標</p> <p>担当理事の目標にもある学生への健康支援とメンタルヘルス対応の充実を目標とする。また、労働安全衛生の遵守もセンターの目標とする。</p> <p>1. 学生および職員健診の充実</p> <p>1. ICカード化、外来受付入カシステム、診療放射線技師の雇用などで健診システムはほぼ定常化しており、今後は健診事後措置受診者数の増加を目標とする。また、健診において、メンタルヘルス不調学生を早期にキープアップ・メンタル担当者に結びつける。</p> <p>2. 「メンタルヘルス対策推進室」の発動</p> <p>学生・職員の緊急対応システムの確立、復職支援システムの改定、ストレスチェックの実施準備などを具体的に進める。</p> <p>3. 禁煙支援</p> <p>禁煙教育、禁煙支援のための学生教育(健診、講義、課外活動、禁煙相談外来)を実施する。</p> <p>4. 安全衛生委員会の充実</p> <p>安全衛生委員会が形骸的にならないよう実践的な啓発活動を行う。</p> <p>④-2 目標とする(重要視する)客観的指標</p> <p>1. 在校生健診受診率をH26年度より上昇させる。</p> <p>2. 職員の健診事後措置受診者数を増加させる。</p> <p>3. 数値ではあげられないが、上記2を具体化する。</p> <p>4. 職員および学生の喫煙率を昨年度より減少させる。</p> <p>5. 外傷報告を毎回行い、啓発事例を可能な限り報告する。</p>	<p>自己評価</p> <p>目標への取り組み状況</p> <p>1. 学生および職員健診の充実</p> <p>職員の定期健康診断率は3月10日現在で95.7%で昨年度の89.7%より受診率がアップした。追加健診を4回実施し、最終的には部局等管理者に未受診者名簿を送付するとともに受診の勧奨を依頼した。特殊健診は学生379名、職員69名と昨年度並であった。</p> <p>2. 「メンタルヘルス対策推進室」の発動</p> <p>メンタルヘルス対策推進室を中心に、学生・職員の緊急対応システムの確立、復職支援システムの改訂、ストレスチェックの実施にむけての準備を行い、最終的に「教職員のメンタルヘルス対策」のパンフレットを作成した。</p> <p>3. 禁煙支援</p> <p>保健管理センター、安全衛生部また学生(CCC)と協力して種々の啓発活動を行った。全学的な禁煙の啓発教育としてe-learning実施に向け、試行的に教材内容をWeb上にアップし、後期教養授業で実施した。</p> <p>4. 安全衛生委員会の充実</p> <p>安全衛生委員会において、毎回外傷処置報告を行った。啓発事例も提示して事故防止の啓発をした。</p> <p>指標による達成状況</p> <p>1. 在校生健診受診率は、64.4%で、昨年の59.9%よりアップした。</p> <p>2. 職員の健診事後措置は、緊急度に応じて呼び出しをした。また、事後措置の通知は再三案内を行った。</p> <p>3. 職員の喫煙率は、ほぼ横ばいで、学生喫煙率は敷地内全面禁煙化施行後、減少傾向にある。</p> <p>4. 毎回外傷処置報告を行った。臨時視察も行い、啓発事例も提示して事故防止の啓発をした。</p> <p>①教育活動：当センターの教育目標は、個々の学生が健康かつ安心して学生生活をおくれるよう支援することのみならず、卒業後の生涯にわたる健康保持のために正しい健康観を身につけてもらうことと考えている。また、大学の中には定期的5%前後は支援を要する学生が存在すると考えられる。こういった学生に目を向け、援助して卒業へ送り出すことも大学に科せられた大切な使命であり、当センターはそいった学生を常にサポートできる場であらいたいと考えている。</p> <p>②研究活動：当センターでは、研究施設としての要素は少なく、高度な研究業績などの追及ではなく、保健・衛生に関わる実践的な研究や疫学的研究にフォーカスをおいている。基礎的な研究は、各教員が大学病院などの部署との連携で行っている。</p> <p>③社会貢献：メンタル系教員は個々に十分な社会貢献活動を行っていると考えている。センター全体としての社会貢献活動、例えば保健管理センターのみで市民公開講座などを行うのが今後の課題であるが現実的には一般業務の関与でセンター単独ではなく研究会などの一環として公開講座の開催を企画している。</p> <p>④センター業務：健診システムには、これまで年月をかけて計画的に設備投資を行ってきたが、業務の精度、迅速性、省力化などは改善しつつある。本年度は老朽化した職員の健診システムをバージョンアップすることができた。今後は全学センターとして、鹿田地区との健診システムの整合性をハード、ソフト両面で見直すこと、また健康診断受診率アップと事後措置の充実などの課題に対応していく必要がある。本年度は、追加健診の実施や未受診者への呼びかけなどにより学生・職員ともに昨年度より健診受診率が向上した。予約システムなどの導入を今後の課題としている。</p>